



「クオリアと精神医学」

城間クリニック
城間 清剛

「クオリア」という言葉をご存知でしょうか？最近注目を浴びている脳科学者の茂木健一郎氏の著書（「意識とはなにか—<私>を生成する脳—」ちくま新書）を読んで、クオリアについて大変興味深く思ったので、精神医学との関連も含めて少し考えてみたいと思う。

「クオリアとはもともと「質」を表すラテン語で、1990年代の半ば頃から、人がこの中で感じるさまざまな質感を表す言葉として定着してきた」らしい。砂糖の甘さ、ヴァイオリンの音色、果物の赤の質感など、ものの質感や「～らしさ」など私たちが日常的に体験し意識するものはすべてクオリア（質感）であるという。さらに「Aさんがこの時間は家にいることを知っている、このころの状態と、Aさんがこの時間は家にいることを信じている、このころの状態はそれぞれ異なるクオリアを持つ。（略）ある状態が他の状態と異なるユニークなくあるもの>として把握されるのは、その状態は固有のクオリアによるのである」そうだ。

つまり、人の体験や意識、そのときどきの心的状態はすべて固有のクオリアで表され、（説明され）、「意識とはクオリアのかたまりである」という。

クオリアは、聴覚、味覚、触覚、嗅覚など五感への物理的生化学的刺激的微妙な違いの感覚を表す一方、先に述べたように、このころの状態、感情や主観の領域まで広がり、このころの状態の違いをも表す。また「シャボン玉の表面の虹色に輝く様子やビニール袋の表面の輝く様子」などクオリアとしての違いを確かに感じ分けられていても、言葉として違いを表現しきれないことも数多くある。私たちが感じ分けしている無数

のクオリアに言葉が十分に対応していないのだ。にもかかわらず私たちは無限ともいえるクオリアの微妙な違いを確実に感じ分けしている。

クオリアは、対象の同一性や認知に大きく関わっている。人は小学生の自分と大人の自分の違いと同一性を感じながら自分という対象を感じ認識しているし、同様に年齢を経た友人も年齢ごとの違いを認識しつつ同一性を維持して認識している。全くデザインの異なる旧紙幣と新紙幣の違いを認知しながら、しかしそのクオリアを感じて紙幣としての価値を活用している。

クオリアの概念そのもの、クオリアを通して同一性や認知について考えることは、精神症状や精神疾患の理解に寄与するものではなかろうかと思う。

精神症状のひとつに、「離人感」がある。うつ病や統合失調症の際に表れる症状で、現実感が乏しくなってしまう症状である。現実世界がまるで薄いヴェール越しにあるかのような感覚になる。本人としては何をしていても実感がなく、辛い気持ちになる。これなどはまさに、外界を認知する際の質感＝クオリアが何らかの理由で障害されたための症状ではないだろうか？

認知症の場合に、せん妄でもないのに見当識障害のために家族を認識できたりできなかったりして外界の認知が変動することがある。あるいは統合失調症の幻覚や妄想も「あるもの」が「あるもの」としての同一性や認知が障害された症状であるとする、それもまさにクオリアの機能の障害(?)が関係しているのではないか。

離人感に似た感覚であるが、精神的にショックな出来事があると、一瞬にして外界の様子が違って見えてくることがある。昨日までの世界、ついさっきまでの世界が同じものでありながら瞬時に全く違った「色彩」を帯びて感じられる。これなどまさにクオリアの違いでしか言い表すことができない（詩人のような言葉の素養や精神分析の深い見識があれば別の説明もあるかもしれない）。

外界が違った色彩を帯びて見えてくる様子を、サングラスをかけたようなものだとすると、

出来事を聞いた瞬間にサングラスをかけた状態になる。これは一瞬にして起きる。そこから日がたち時間とともに精神的に立ち直るにつれてサングラスの色が少しずつ薄くなっていくが、しかしサングラスをかけていなかった時期とは世界がまったく違って見える。サングラスの色がほとんどない時期になっても、本人にとっては同じ世界でありながら以前とはわずかながら異なる世界が感じられる。本人の心の中には以前の世界と今の世界が同時に存在し、その違いと同一性が認識されている。

クオリアという何らかの脳のメカニズム(?)があつて、それが器質的なものか機能的なものかわからないが、それを通して、意識が成立し外界を認識していると考えれば、クオリアの機能によって外界が一瞬にして変化して見えたり、外界が認識できたりできなかつたり、対象の同一性が動揺したりするのも理解できるのではないだろうか?

クオリアの研究が進んで、クオリアと脳内の神経伝達物質や神経回路との関連性が明らかになり、その障害といま説明したような精神症状との関連性が示されるならば、クオリアを通して精神症状を理解することで、精神医学は大きく転換するのではないかと夢想してしまう。

★リレー状況

—平成14年以前掲載省略—

32. 川平稔先生 (コザクリニック) Vol. 39 No. 1
33. 長嶺文雄先生 (湘南病院) Vol. 39 No. 4
34. 松岡政紀先生 (北部病院) Vol. 39 No. 7
35. 小橋川悟先生 (読谷村診療所) Vol. 39 No. 10
36. 鳥谷裕先生 (ライフケアクリニック読谷)
Vol. 39 No. 12
37. 玉井修先生 (曙クリニック) Vol. 40 No. 3
38. 田川辰也先生 (琉球大学大学院医学研究科
薬物作用制御学分野) Vol. 40 No. 4
39. 藤本奈央子先生 (医療法人清心会
徳山クリニック内科) Vol. 40 No. 6
40. 戸澤雅彦先生 (安立医院) Vol. 40 No. 9
41. 大湾勤子先生 (独立行政法人 国立病院機構
沖縄病院) Vol. 40 No. 11
42. 宮城茂先生 (独立行政法人 国立病院機構
沖縄病院) Vol. 41 No. 2
43. 祝嶺千明先生 (しゅくみね内科) Vol. 41 No. 3
44. 宮城裕二先生 (みさと耳鼻科) Vol. 41 No. 4
45. 親川富憲先生 (医療法人富岳会
おやかわクリニック) Vol. 41 No. 6
46. 折田均先生 (ハートライフ病院) Vol. 41 No. 7
47. 湧田森明先生 (わくさん内科) Vol. 41 No.9
48. 宮良球一郎先生 (宮良クリニック) Vol. 41 No.10
49. 蔵下要先生 (浦添総合病院) Vol. 41 No.12
50. 樋口大介先生 (独立行政法人
国立病院機構沖縄病院) Vol. 42 No.3
51. 古謝淳先生 (南山病院) Vol. 42 No.5